

名称

## ステージターゲット表

## 期待するアウトプット

- 開発設計のステージ(節目)ごとのターゲット(GO/STOP判断基準)が明確になる
- 各ステージの重要課題、プライオリティが明確になる
- 開発設計の途中段階での完成度が見えるようになる
- 段階的な目標が明確になることで、計画の内容がより充実する
- 担当部門間、担当者間での共通認識が得られる
- 開発設計の早い段階において完成度が高まることで、開発設計目標(QCD目標、販売目標)の達成水準が高まる

## 構成

- ① ステージターゲット表
- ② 課題管理表

## 使用目的と特徴

- 開発設計のスタート時において、開発設計に関わるメンバー全員またはキーメンバーで使用する。作業の完了視点ではなく、各工程終了時の達成目標を、開発設計の質の視点で記述することで、開発設計の早い段階において完成度を高めていく。

## シート開発・設計のポイント

- 過去の開発設計における問題の原因分析
- 今回の開発設計の特性、新規点、重点課題の抽出
- 過去の開発設計において後工程で行われた評価項目の前倒し化検討等をインプット情報とすることで、開発設計目標の達成水準をより高めることのできるような、よいステージターゲットを設定することができる。

## シート活用・展開のポイント

- 開発設計のスタート時に開発設計に関わるメンバー全員で作成することで、開発設計の進め方の共通認識を得ることができる。
- 完成度を課題の抽出状況、課題の解決状況の2つの視点で把握し、より早く抽出するには? より早く解決するには? といったことを分析していくことで、完成度をより早期に高めるための具体策を見出すことができる。

## 1 ステージターゲット表

●各工程の完成度目標を設定する(完成度項目を抽出する)。

	商品企画	構想設計	詳細設計	設計試作	量産試作	
工程の定義 (意味付け)	「これなら売れる」という企画を立案する	製品仕様が確定し、重要技術課題とその解決方法がクリアになっている	設計の詳細な構造、部品が検討され、すべての設計数値がFIXしている	技術的な視点からの評価が実施され、技術的な課題は全てクリアされている	ユーザー使用環境を含めた評価が実施され、100%問題ないことを確認	
完成度項目と水準	事業性 商品性	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品コンセプト、ターゲット顧客が明確になっている</li> <li>市場調査を通じて、ニーズが検証されている</li> <li>投資回収を含めた事業採算性が検討されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場動向、競合動向が絶えずウオッチされ、商品企画内容、設計仕様にフィードバックされている</li> <li>仕様変更情報が確実に周知され、設計に織り込まれている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場動向、競合動向が絶えずウオッチされ、商品企画内容にフィードバックされている</li> </ul>		
	機能 信頼性	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な商品仕様と機能が決まっている</li> <li>市場における目標品質が設定されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品仕様がFIXしている</li> <li>仕様の固定変動方針が明確になっている</li> <li>重要技術課題と解決策がクリアになっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計課題が確実に図面に盛り込まれている</li> <li>評価計画が十分検討されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確実に評価が実施され完了している</li> <li>評価で発生した問題点の原因が分析され、設計へフィードバックされている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確実に評価が実施され完了している</li> <li>評価で発生した問題点の原因が分析され、設計へフィードバックがされている</li> </ul>
	コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標売価、利益から目標原価が決定している</li> <li>市場調査にて目標の妥当性が検証されている</li> </ul>	1st look VEが検討され、目標原価を達成できる目的が立っている	最小コストでの設計になっていることが、図面によって確認されている	目標原価通りにできるかどうか、実際の試作品で検証されている	目標原価通りにできることがモノで確認されている
	製造性	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産ラインの追加投資の有無が検討されている</li> <li>目標歩留がFIXしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産ラインの固定変動方針がFIXしている</li> <li>目標歩留達成の目的がついている</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>試作品での製造性、組立性評価が完了し、問題点が抽出されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題なく製造・組立できることが確認され、狙った歩留が達成できることが確認されている</li> </ul>
	納期	商品のリリース時期と各節目のタイミングが設定されている	各部連携したコンカレント開発計画が立案されている	出荷までの詳細な中日程計画が立案されている	設計検証の詳細な中日程計画が立案されている	妥当性検証の詳細な中日程計画が立案されている

## 2 課題管理表

●完成度目標を達成するための課題の抽出/解決の状況を管理する。

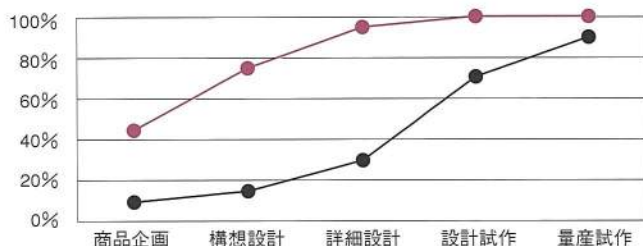
視点	課題	解決方針	担当	納期	進捗	進捗管理用記入欄		振り返り用記入欄					
						実績		目標		実績と目標にGAPが生じた場合の原因		以降の開発での早期完成度向上に向けた施策	
						課題抽出工程	課題解決工程	課題抽出工程	課題解決工程	課題抽出工程	課題解決工程	もっと早く抽出するには	もっと早く解決するには
仕様	〇〇機能のフェールセーフ仕様決定	△△を××まで記述した、たたき台を作成、レビューの上、顧客に提案しFixする	新井本	8/12	済	詳細設計	設計試作	構想設計	構想設計	構想設計完成度視点なし	顧客の使用条件抽出漏れ	構想設計完成度視点の設定	顧客プロセスに沿った使用条件抽出

## 3 完成度状況のグラフ例

●課題抽出/解決状況を件数比率※1でグラフ化すると完成度の高まり方を把握しやすい。

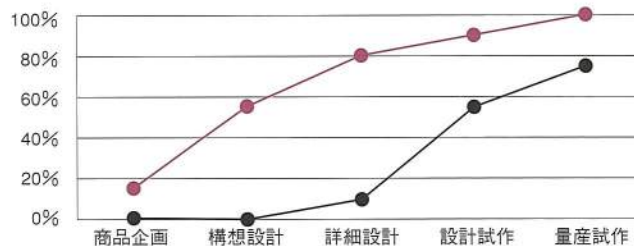
●課題の抽出状況

● : 今回実績    ● : 次回目標



●課題の解決状況

● : 今回実績    ● : 次回目標



※1 課題の難易度の視点で重み付けをしてもよい。